



取扱説明書(ホンダ編)

ご使用になる前に	2
はじめに.....	3
安全にご利用になるために	4
診断機能	6
自己診断機能	7
作業サポート機能.....	12
SCSショートモード.....	15

ご使用になる前に

はじめに.....	3
安全にご利用になるために.....	4

本取扱説明書では、ホンダ車の診断機能に関してご説明させていただきます。
ご使用の前に本取扱説明書をよくお読みいただき、正しく安全にお使いください。
本体の基本的な操作は、本体の取扱説明書をご覧ください。

株式会社インターサポート

- 本製品を安全にお使いいただくために、お使いになる前に、必ず本取扱説明書ならびに添付のその他の取扱説明書を必ずお読みください。
- 本取扱説明書および添付のその他の取扱説明書では、人に対する危害や財産への損傷を未然に防止するために、危険を伴う操作、お取扱について、次の記号で警告または、注意しています。内容をよくご理解の上で本文をお読みください。

**警告**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されます。

**注意**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が負傷を負う可能性、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

本製品を安全にお使いいただくために以下の内容をお守りください。

以下に述べられている警告や他の案内を無視した事が原因となる製品の損害や、被害などに関しては、当社は一切責任を負いません。



警告

- 走行状態でご使用になる場合には、必ず運転者、操作者の2人でご使用ください。操作に気を取られて事故につながる恐れがあります。
- アクティブテストはホンダのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。使用方法を間違えると、車両に悪影響をおよぼし事故発生の原因となる恐れがあります。
- アクティブテストは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）および、車両停止状態（パーキングブレーキをかけて、輪留めをする）で実行してください。



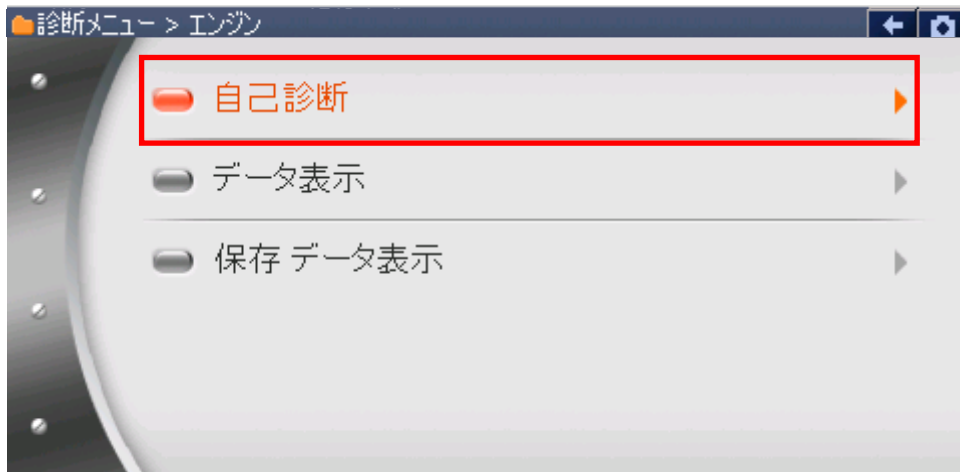
注意

- ホンダ車または、ホンダ製造のOEM車以外に使用しないでください。

診断機能

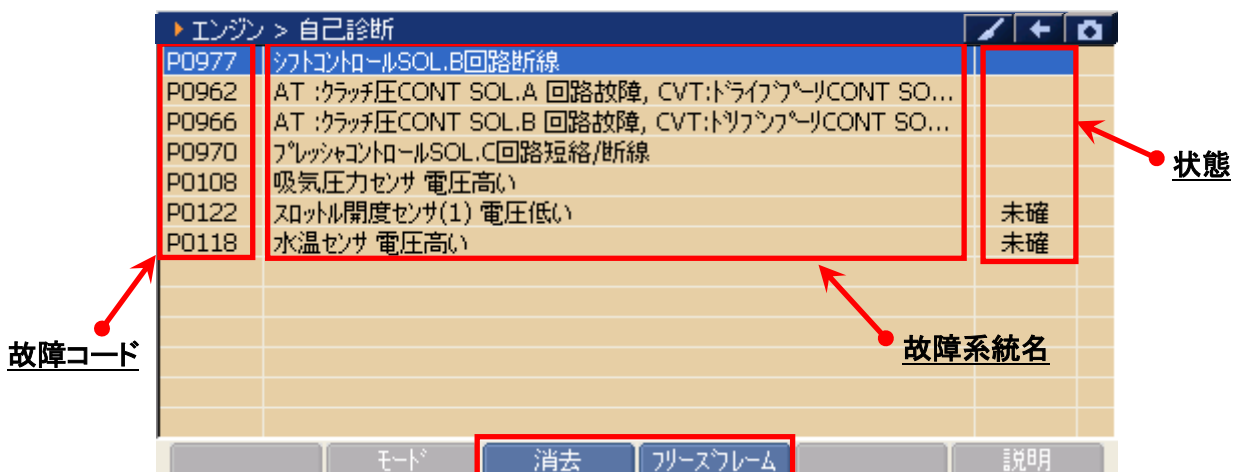
自己診断機能	7
作業サポート機能.....	12
SCSショートモード.....	15

- 1) 診断メニューにおいて『自己診断』選択して、**ENTER** ボタンを押してください。



〈図: 診断メニューにて自己診断を選択〉

- 2) 自己診断画面が表示され、記憶された故障コードが表示されます。



〈図: 自己診断画面〉

故障コード : ホンダ独自の故障コードNo.、又はSAEコード(例:P0135)が表示されます。

故障系統名 : 故障系統名が表示されます。
故障内容の詳細に関しては、ホンダのサービスマニュアルをご参照ください。

故障の検出状態を表示します。

状態 : 「未確」 : 2トリップ連続検出法(誤診断防止のため、IG SWのOFF/ONをはさんだ2回の連続する走行で2回とも同じ故障が検出されないと故障と判断しない。)を使用した故障コードで、1回目の検出を意味します。
「過去」 : 過去に故障コードを検出したことを意味します。

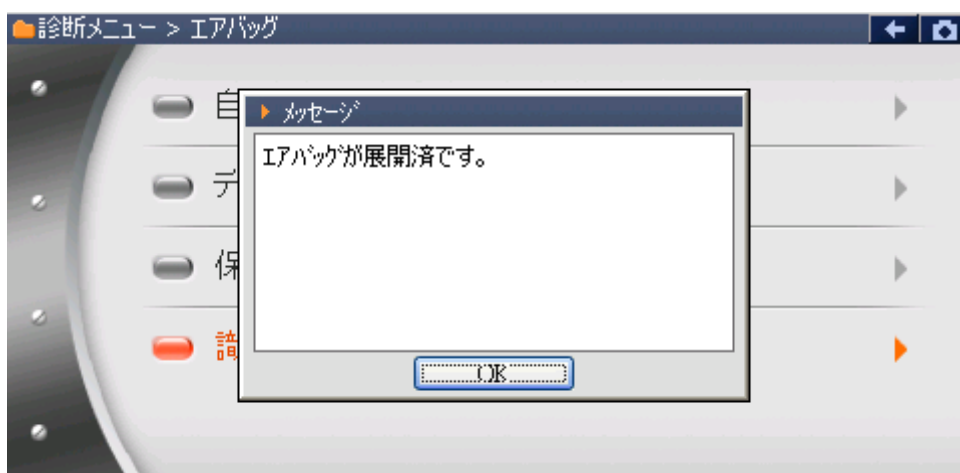
消去 自己診断記憶を消去します。【詳細はP9を参照】

フリーズフレーム フリーズフレームデータを表示します。【詳細はP10を参照】

※注意と補足※

- ・ 自己診断画面の表示形式は診断するシステムによって異なります。
- ・ エアバッグECUが展開済みの場合は以下の画面が表示されます。

その場合には、作動履歴の故障コードが優先されて、断線等の故障コードが検出されない場合や全く故障コードが表示されない場合があります。エアバッグECUを交換した後に再度自己診断を行ってください。

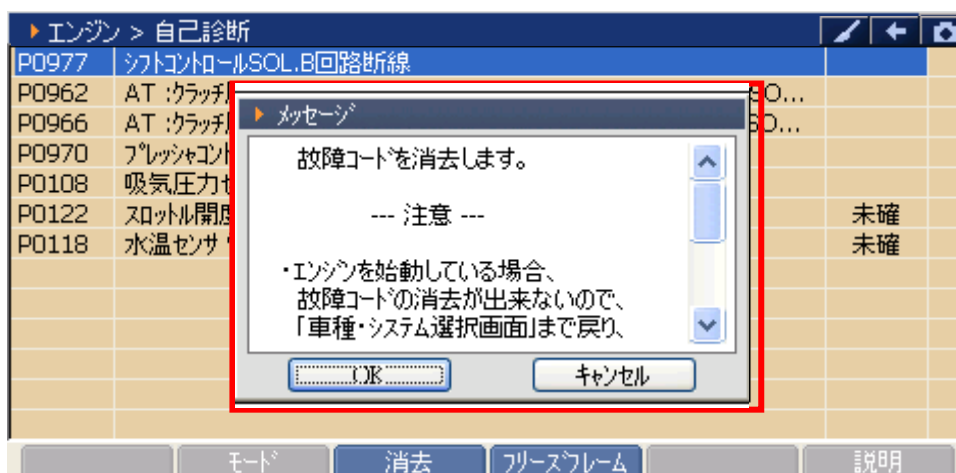


<エアバッグ展開済み時の表示画面>

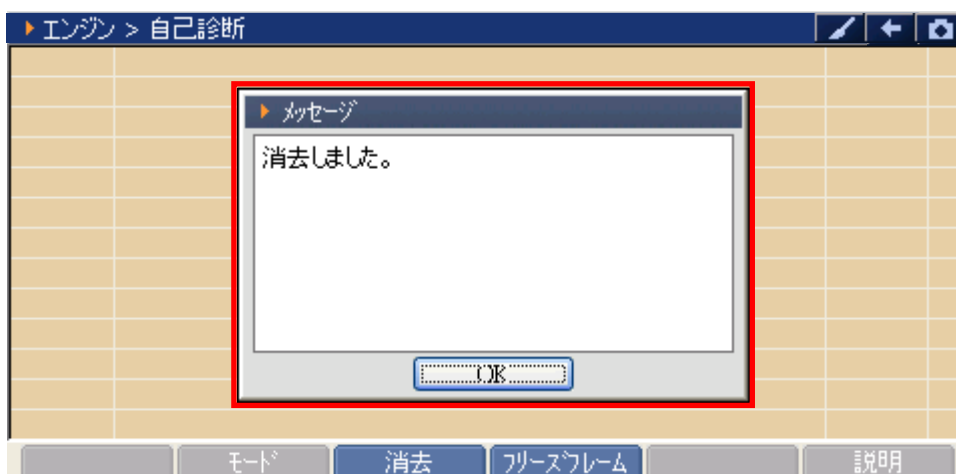
- 3) **消去** ボタンをタッチ、又は **F3** ボタンを押すと故障コードを消去します。以下の画面が表示されますので、**OK** ボタンをタッチして故障コードを消去してください。

※注意と補足※

- ・ エンジンを始動している場合、故障コードの消去が出来ませんので、「車種・システム選択画面」まで戻り、IG SWを一度OFFに、再びONにしてからシステムの選択をしてください。(エンジンは始動させないでください。)
- ・ ABS/VSCの故障コードを消去すると、VSA中立点学習が必要になる場合があります。



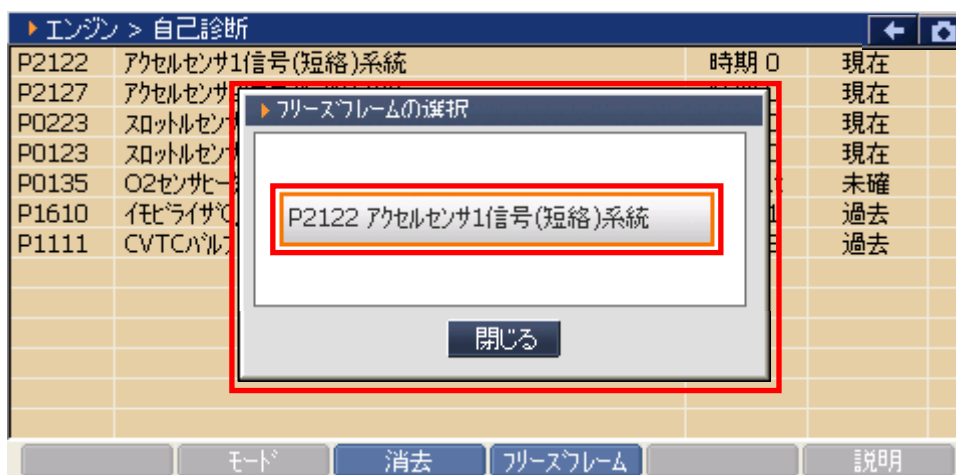
〈図:故障コードの消去〉



〈図:故障コードの消去完了〉

■ フリーズフレーム ボタンの詳細

- ① **フリーズフレーム** ボタンをタッチ、又は **F4** ボタンを押すと以下の画面が表示されます。フリーズフレームデータを表示する故障コードを選択してください。



〈図: 表示するフリーズフレームデータの選択〉

- ② 故障コードを選択すると、フリーズフレームデータが表示されます。
戻る ボタンをタッチ、又は **F1** ボタンを押すと自己診断画面に戻ります。

The screenshot shows the diagnostic tool interface displaying freeze frame data for the selected fault code P2122. The data is presented in a table with columns for the parameter name, value, and unit. The '戻る' (Back) button at the bottom left is highlighted with a red border.

エンジン > フリーズフレーム		
P2122 アクセルセンサ1信号(短絡)系統		
燃料システムステータス B1	モード	-
水温センサ	-40	°C
空燃比学習値 B1	100.0	%
空燃比補正值 B1	100.0	%
エンジン回転数	4	rpm
車速センサ	0	Km/h
噴射パルス	7.8	mS
吸気温センサ	-45	°C

〈図: フリーズフレームデータの表示〉

※注意と補足※

- ・ フリーズフレームデータとは故障コード発生・検出時のデータがECU(エンジンコンピュータ)によって記録されたものです。記憶されるデータの種類は車載ECUによって決められており、故障コードの種類には関係なく決まった種類のデータが記憶されます。
- ・ フリーズフレームデータは故障コード消去後、最初の故障コード発生と同時に1回だけ記憶されます。
- ・ フリーズフレームデータは故障コードを消去する時に同時に消去されます。

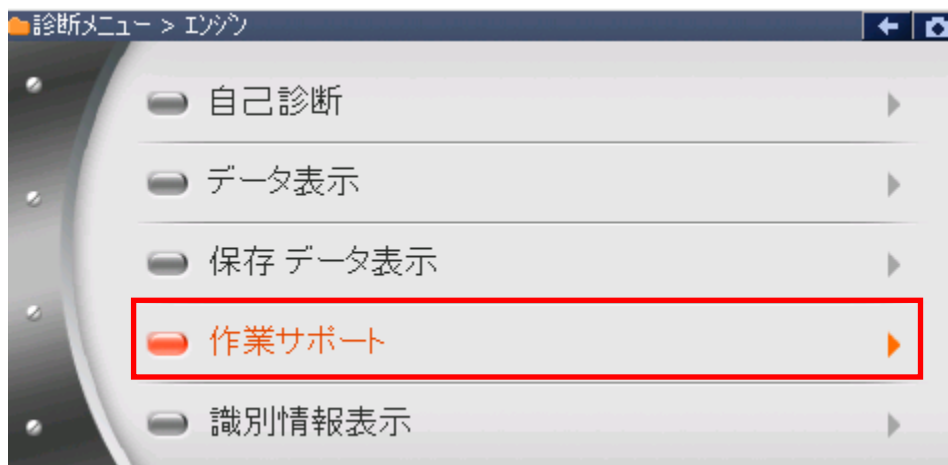
**警告**

- 作業サポートはホンダのサービスマニュアルにより各システムの駆動システム、制御内容を十分に理解した上で行ってください。
- 使用方法を間違えると車両に悪影響をおよぼし、事故発生の原因となる恐れがあります。
- 作業サポートは車両が正常な状態（ウォーニングランプ消灯時、故障未検出時）で実行してください。

最新の作業サポートの対応については、製品サイト: G-scan.jpを参照してください。

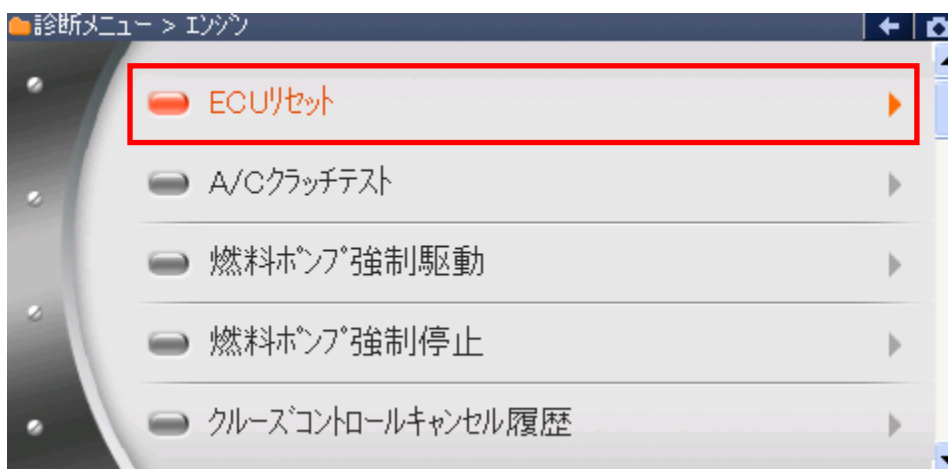
<https://g-scan.jp/g-scan/system-honda.html>

1) 診断メニューにおいて『作業サポート』を選択して **ENTER** ボタンを押してください。



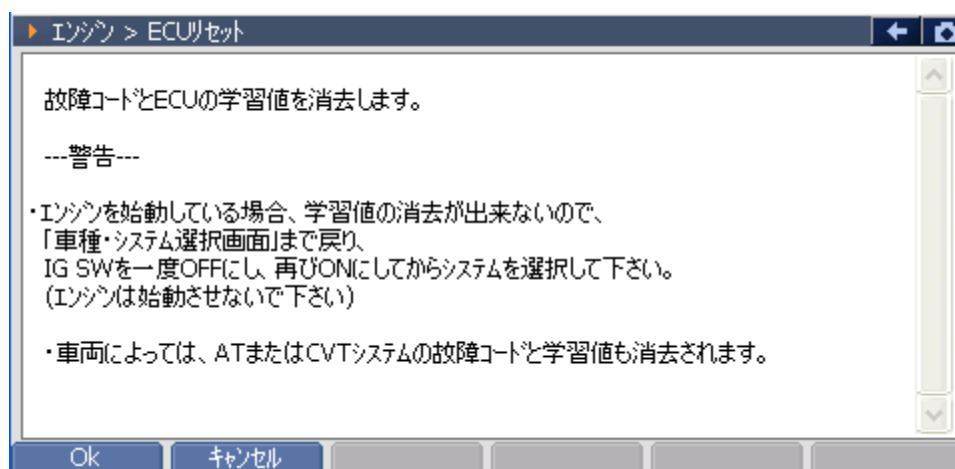
〈図: 診断メニューにて作業サポートを選択〉

2) 作業サポート項目選択画面が表示されます。ここでは例として『ECUリセット』を選択して **ENTER** ボタンを押してください。



〈図: 作業サポート項目選択画面〉

- 3) 作業サポート実行画面が表示されます。画面の指示に従って作業サポートを実行してください。

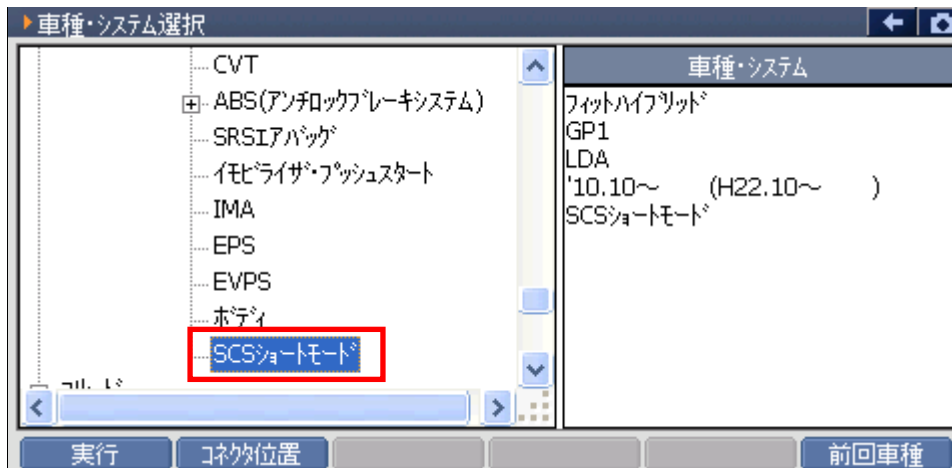


〈図: ECUリセット実行画面〉

※注意と補足※

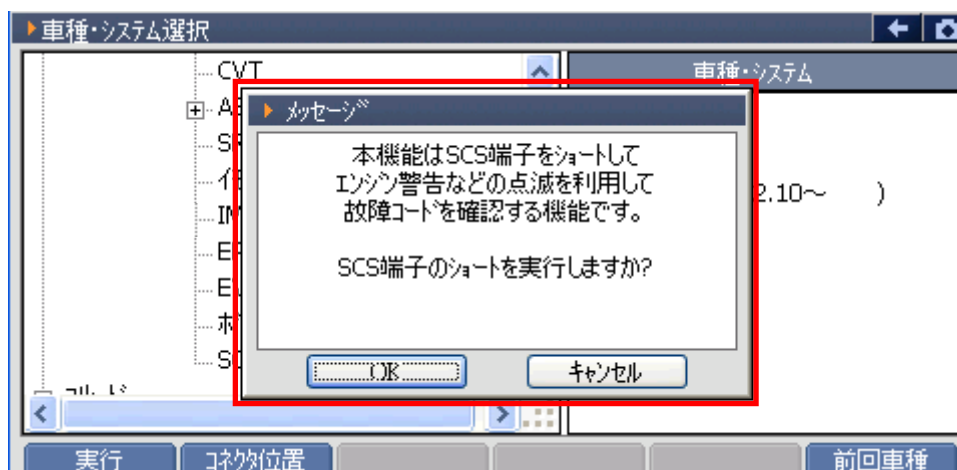
- ・ ECU学習値とは、車両の制御に必要な適正アイドル回転数などの補正值のことです。
- ・ ECUリセットを行った後、アイドルの学習を行う必要があります。詳細に関してはホンダのサービスマニュアルをご参照ください。
- ・ 車種によっては、エンジン、AT、CVTのいずれかのシステムでECUリセットを実行した場合、エンジンとAT、あるいはエンジンとCVT両方のシステムでECUのリセットが行われる場合がありますので、ご注意ください。

- 1) 車種・システム選択画面において『SCSショートモード』を選択して、実行 ボタンをタッチ、又は FI ボタンを押してください。




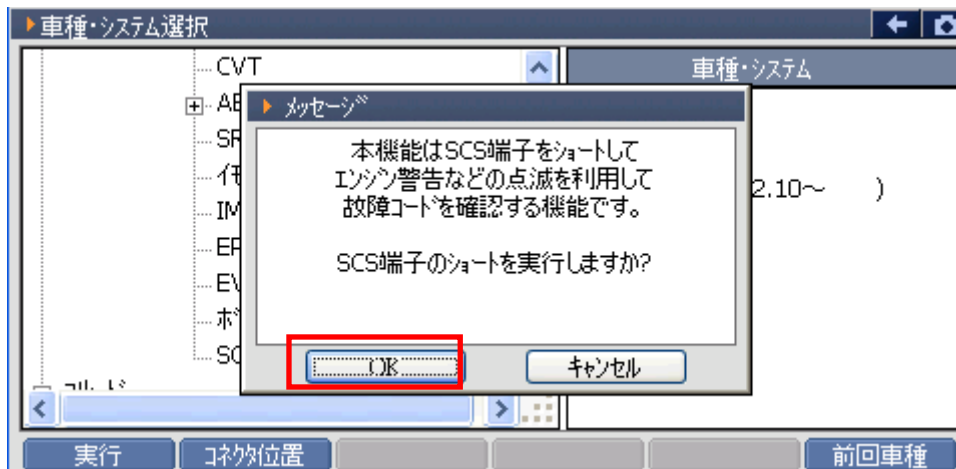
〈図: SCSショートモードを選択〉

- 2) 以下の画面が表示されます。

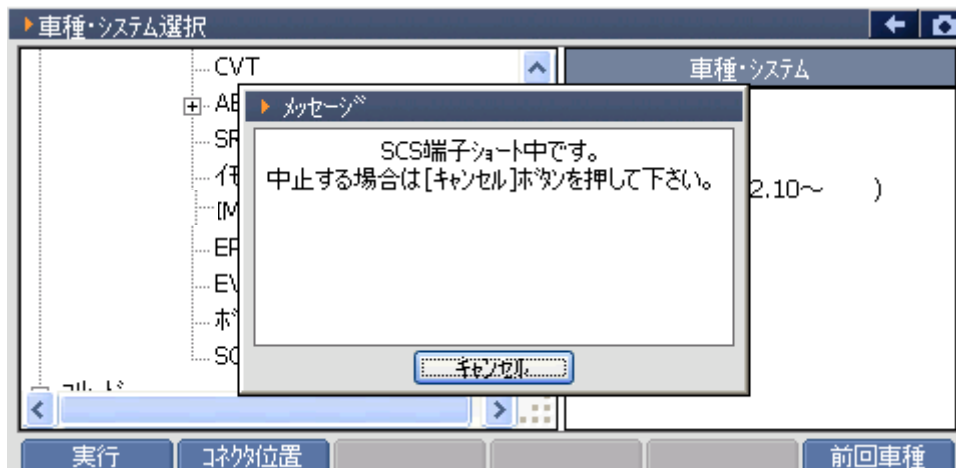


〈図: SCSショートモード実行確認画面〉

- 3)  ボタンをタッチしてSCSショートモードを実行します。



〈図: SCSショートモード実行確認画面〉



〈図: SCSショートモード実行中画面〉

※注意と補足※

- ・ 16ピンの診断コネクタ(データリンクカプラ)の9番ピンにはSCS(サービスチェックシグナル)ラインがつながっています。このSCSラインと4番ピン(グランドアース)を短絡させることをSCSショートといいます。警告灯で故障コードを読み出す場合や、点火時期の確認(調整)を行う場合に使用します。詳細はホンダのサービスマニュアルをご参照ください。
- ・ SCSショートモードは16ピンの診断コネクタ(データリンクカプラ)装備車のみ対応です。



株式会社 インターサポート

〒310-0803

茨城県水戸市城南1丁目6番39号

Tel 029-303-8021 Fax 029-303-8022

<https://www.inter-support.co.jp>

<https://g-scan.jp>

製品保守センター

(修理のお問合せはこちら)

Tel 0570-064-737 → ② (ナビダイヤル※)

サポートセンター

(製品のご相談・ご質問はこちら)

Tel 0570-064-737 → ① (ナビダイヤル※)

Fax 029-303-8055

※IP電話・PHSからはご利用出来ませんので、FAXでお問い合わせください。

2021年6月発行 第17版

本書を株式会社インターサポートの許可無く複写、複製、転載する事を禁じます。

本書に記載の製品、製品仕様、および使用方法は改良のために、将来予告なしに変更される場合があります。

G1PZFDN001-6-17